

国内外の情勢

世界の動向

- SDGsの採択、パリ協定の発効、首相の2050年カーボンニュートラル宣言
- ESG金融の拡大 ●G20「大阪ブルー・オーシャンビジョン」 ●サーキュラーエコノミー

日本の動向

- 人口減少、少子高齢化社会の進行
- 多発する自然災害（台風、集中豪雨、地震）
- AI、IoT等の技術革新 ●新しい生活様式（アフターコロナ）

県内情勢と新たな課題

<環境>

- 脱炭素社会への取組の加速化 ●プラスチックごみへの対応
- 豊かな自然環境の保全と活用 ●環境と経済の好循環 等

<経済>

- コロナ禍による地域経済の停滞の懸念 等

<社会>

- 人口減少・少子高齢化 ●多発、激甚化する自然災害 等



目指す将来像

地球環境を守り、地域資源を活かし共に支え合う、「環境と生命の世紀」を先導する“ふじのくに”の実現

計画期間

2022～2030年度

将来像を実現するための取組の方向1

恵み豊かな地球環境の保全と経済、社会の調和のとれた発展

将来像を実現するための取組の方向2

資源が循環する自立・分散型の社会を形成しつつ、
地域資源を補完し、支え合う「地域循環共生圏」の創造

将来像を実現するための施策

脱炭素社会の構築

～カーボンニュートラルの実現～

- 1 産業・業務、運輸、家庭部門の省エネルギー化の推進
- 2 再生可能エネルギー等の導入・利用促進
- 3 技術革新の推進
- 4 適切な森林整備等による吸収源の確保
- 5 気候変動影響への適応

資源循環社会の構築

～サーキュラーエコノミーへの移行～

- 1 3Rの推進（発生抑制、再使用、再利用）
- 2 廃棄物適正処理の推進
- 3 プラスチック対策の推進
- 4 食品ロス対策の推進

自然共生社会の構築

～人と自然との関係を見つめ直す～

- 1 生物多様性の確保
- 2 自然環境の保全
- 3 人と自然との共生

良好な生活環境の確保

～安全・安心な暮らしを守る～

- 1 水質・大気・土壌等の環境保全
- 2 健全な水循環の確保
- 3 環境影響評価の適切な実施

環境と調和した社会の礎の形成 ～全てに共通する施策～

- 1 環境と経済の好循環の創出
- 2 環境にやさしいライフスタイルの実践
- 3 環境保全の担い手の育成
- 4 課題解決の基盤となる調査・研究の推進

施策（案）

脱炭素社会の構築

～カーボンニュートラルの実現～

1 産業・業務、運輸、家庭部門の省エネルギー対策化の推進

- 脱炭素経営の推進
- フロン等その他温室効果ガスの削減
- まちづくり、地域交通の脱炭素化（次世代自動車等）
- ライフスタイルの転換
- 住宅、建築物の省エネ化（ZEB、ZEH）

2 再生可能エネルギー等の導入・利用促進

- 地域における再生可能エネルギーの導入促進
- 水素エネルギー等の活用促進

3 技術革新の推進

- 環境、エネルギー関連産業の振興
- 新技術等の研究開発の支援

4 適切な森林整備等による吸収源の確保

- 森林の適正管理、多面的機能の発揮
- 森林資源の循環利用の促進
- 県産材の利活用促進

5 気候変動影響への適応

- 農林水産業への影響把握と対策
- 災害に強い地域づくり
- 健康被害対策 ○適応の普及啓発

資源循環社会の構築

～サーキュラーエコノミーへの移行～

1 3Rの推進

（発生抑制、再使用、再生利用）

- 発生抑制・再使用の推進
- 未利用資源（下水汚泥等）の利活用推進
- リサイクル認定製品の普及啓発

2 廃棄物適正処理の推進

- 事業者指導の強化と優良事業者の育成
- 不法投棄対策の推進
- 災害廃棄物の適正処理
- 適正処理体制の充実（ごみ処理広域化）
- 海岸漂着物対策

3 プラスチック対策の推進

- 海洋プラスチックごみ対策
- プラスチックの排出抑制

4 食品ロス対策の推進

- 県民運動の展開
- フードバンク等の取組支援

自然共生社会の構築

～人と自然との関係を見つめ直す～

1 生物多様性の確保

- 希少動植物の保全
- 外来動植物対策、有害鳥獣対策

2 自然環境の保全

- 自然公園の適正管理・利用促進
- 伊豆半島・富士山南アルプス・浜名湖の保全
- 美しい景観づくりの推進等
- 里地・里山・里海の保全
- 環境保全型農業、漁業の推進

3 人と自然との共生

- 自然ふれあい施設の利用促進
- 新たな森林空間の活用（forest style）
- 県民参加の森づくりの推進
- エコツーリズムの推進

良好な生活環境の確保

～安全・安心な暮らしを守る～

1 水質・大気・土壌等の環境保全

- 常時監視（モニタリング）の実施
- 事業者の指導の実施
- 生活排水対策の推進
- 化学物質の適正管理の推進

2 健全な水循環の確保

- 水資源の適正な管理と有効利用の促進
- 水道水等の安定供給の確保（水道広域化等）

3 環境影響評価の適切な実施

環境と調和した社会の礎の形成

～全てに共通する施策～

1 環境と経済の好循環の創出

- 環境ビジネスの発掘・育成
- グリーン成長戦略の推進
- ESG金融の普及拡大（グリーンボンドの発行の検討を含む）

2 環境にやさしいライフスタイルの実践

- 各種県民運動の展開（ふじのくにCOOLチャレンジ、海プラ防止6R等）
- 環境保全への行動変容を促す情報発信
- エシカル消費の推進

3 環境保全の担い手育成

- 環境教育の推進
- 環境教育指導者の養成
- ネットワークづくり
- 普及啓発（作文コンクール等）

4 課題解決の基盤となる調査・研究の推進

現行計画との体系比較

(現) 改定版第3次静岡県環境基本計画

I ライフスタイル ビジネススタイルの変革

- 1 環境と経済の両立
- 2 環境にやさしい暮らし方の実践

II 低炭素社会に 向けた取組

- 1 低炭素型の地域づくり
- 2 低炭素なライフスタイルの確立
- 3 環境と経済を両立するビジネススタイル
- 4 低炭素社会を担う人づくり
- 5 気候変動による影響への適応

III 循環型社会に 向けた取組

- 1 循環資源の3Rの推進
- 2 廃棄物適正処理の推進
- 3 循環型社会を担う基盤づくり
- 4 森林資源の循環利用の促進
- 5 水循環の確保

IV 自然共生社会に 向けた取組

- 1 生物多様性の確保
- 2 自然環境の保全
- 3 人と自然との関係を見つめ直す
- 4 農山漁村地域が持つ多面的機能の発揮
- 5 良好な生活環境の確保

(新) 第4次静岡県環境基本計画

I 脱炭素社会の構築 ～カーボンニュートラルの実現～

- 1 産業・業務、運輸、家庭部門の省エネルギー化の推進
- 2 再生可能エネルギー等の導入・利用促進
- 3 技術革新の推進
- 4 適切な森林整備等による吸収源の確保
- 5 気候変動影響への適応

II 資源循環社会の構築 ～サーキュラーエコノミーへの移行～

- 1 3Rの推進（発生抑制、再使用、再生利用）
- 2 廃棄物適正処理の推進
- 3 プラスチック対策の推進
- 4 食品ロス対策の推進

III 自然共生社会の構築 ～人と自然との関係を見つめ直す～

- 1 生物多様性の確保
- 2 自然環境の保全
- 3 人と自然との共生

IV 良好な生活環境の確保 ～安全・安心な暮らしを守る～

- 1 水質・大気・土壌等の環境保全
- 2 健全な水循環の確保
- 3 環境影響評価の実施

V 環境と調和した社会の 礎の形成 ～全てに共通する施策～

- 1 環境と経済の好循環の創出
- 2 環境にやさしいライフスタイルの実践
- 3 環境保全の担い手育成
- 4 課題解決の基盤となる調査・研究の充実

静岡県環境基本計画の位置づけと関連計画

